

# 仲間の Wa 郷土芸能委員会



「さーこらーちよいわやっせー」。力強い掛け声が室内に響き渡る。栗石高(佐々木佳久校長、生徒72人)の郷土芸能委員会は栗石町に伝わる伝統芸能を継承するため、日々練習に励む。

学校敷地内の同窓会館で放課後、4月に入会したばかりの1年生に対し、踊りの基礎を手取り足取り教える上級生たち。細かい指先の動きや扇子の傾きなどわずかな乱れも見逃さず、指摘しては修正を促す。

回委が取り組む主な演目は「さんざん踊り」「よしゃれ」「亀の子つき唄」「葛根田田植踊り」の四つ。踊りのほか、唄や三味線、尺八と幅広く地元の民俗芸能

## 栗石高郷土芸能委員会



真剣な表情で踊りの稽古に励むメンバー

## 伝統継承へ稽古熱く

保存団体の指導を受けてい 研究会として活動を始め、2019年に45年の歴史を紡いできた。1976年に「よしゃれ 地域の祭りや全国のイベ 賀大会で「上駒木さんさ踊

り」など3演目を披露した。現在は10月の県高総文祭で優秀賞(1席)以上を獲得するべく稽古を積んでいる。

「先輩から受け継いだものを後輩に継承していく。私たちには後世に伝える責任がある」と委員長の小林海愛さん(3年)。若者の熱い思いが伝統芸能の未来を切り開く。

(月曜日に掲載)

【栗石高郷土芸能委員会】1年生8人、2年生5人、3年生4人の計17人が所属。同窓会館で平日2時間、休日3時間の練習を行う。2020年度は県高総文祭で優良賞を獲得し、地域の芸能祭や敬老会などで披露した。問い合わせは栗石高職員室(019・692・3254)へ。

※岩手日報 2021年5月24日付

※この記事は岩手日報者の許諾を得て転載しています